

庄内麦情報

第1号

平成31年3月13日

庄内総合支庁 産業経済部

農業技術普及課

TEL (0235) 64-2103

FAX (0235) 64-2104

生育はすすんでいます。追肥の実施を！

播種期は平年並みからやや早かったため、越冬前の生育量は確保されました。長期積雪期間は56日と平年並であり（平年値-3日）、消雪は2月20日と早くなりました（水田農業試験場より）。雪腐病等の発生は少ないとみられます。暖冬であったため現在の生育は平年より進んでおり、融雪期追肥は下記の時期に窒素成分で4kg/10aを目安に行いましょう。融雪期の追肥は収量・品質向上のための基本技術です。

融雪期追肥の目安

3月12日現在、小麦（ナンブコムギ）の幼穂長は0.5mm以下、大麦（シュンライ）では1~4mm程度となっております。昨年度と比べ7~10日間程度早まっており、大麦では融雪期の追肥時期となっております。

融雪期の追肥（幼穂長1mm~節間伸長が始まる頃）

窒素成分で **4 kg/10a**（硫安の場合 現物約20kg/10a）

時期の目安 **大麦で 3月13日頃~**

小麦で 3月18日頃~

※ 融雪期の追肥は速効性の窒素肥料を施用する。地力が高く、例年倒伏がみられる圃場では施肥量を減らす。

＜融雪期追肥の効果＞ ①有効茎数（穂数）を増加させる
②一穂当たりの着粒数を増加させる

排水対策を万全に

越冬後の分けつ期に停滞水が続くと、地温が上がらずに生育が抑制され、下葉の黄変・分けつの減少・根量の減少などの症状がでます。明渠を活用して周囲からの浸透水を防ぎ、圃場に水が停滞しないようにしましょう。また、明渠とほ場外への排出口がつながっているか、詰まっていないか点検しましょう。

